

# どう使われたか、私たちの一般会計145億円 特別会計92億円 議員が総点検

## 歳入

**問** 町税を滞納したまま転出した遠隔地居住者の実態調査の成果は。

**税務課長** 対象者16名を民間会社に調査を委託し、5名の居住地が判明した。3名から約10万円納付があり、2名は分納の話をしている。

## 安全・安心

**問** 防犯パトロール委託料1080万円の成果は。

**地域課長** 車両1台2名体制、午後3時から11時まで町内のパトロールを行っている。不審者の発見、負傷者の救助、少年たちへの声掛けなど行っており、犯罪件数も319件に減少した。

**問** 町道の安全対策をした場所の選定は。

**建設課長** 月に1度、福生警察署と教育委員会、建設課および地域課の各職員で通学路の点検をしている。地域の方からは区画線が薄くなっている、カーブミラーの設置など、さまざまな要望が建設課の窓口寄せられており、適宜対応している。



評事業  
評価対象となった事業  
(P8・P9参照)

## 福祉・健康

**問** 30年度は発達障がい支援に力を入れると当初予算での答弁があったが、成果や課題は。

**福祉課長** 専門医による講演会を実施した。また、障がいがある子供の保護者の精神的負担軽減のため心理士を採用し相談事業を行った。これにより対象者8名17件の相談を受けた。課題としては教育委員会との連携、紹介先の病院の拡充と考えている。

**問** 医療機関と介護事業者を連携させる目的で、新規に在宅医療・介護連携事業として200万円支出しているが成果は。

**高齢課長** 自宅でケアできるようにするために医師やヘルパーなど多職種をネットワークで結び、13事業所が取り入れた。

**問** 特定健康診査にかかる一人当たりのコストはどの程度になったか。また、受診率向上に向けての課題の分析は。

**健康課長** 受診者数3499人、事業費で一人当たり1万62円。内訳は、都が4127円、町が5935円である。また、受診率向上に特効薬はないことが分析の結果から分かった。国が有効と認めている受診率向上策を粘り強く進めていきたい。

## 農業

**問** 新規就農者確保事業について30年度の状況は。

**産業課長** 新規就農者の営農者は15名。この内、都の補助金で8名に総額900万円が交付された。農機具の保管場所、収入面、農地の拡大などが課題と聞いている。



町としては引き続き新規就農者の方などに協力していただいたひまわり畑の種まきの様子。夏には大きなひまわりが畑いっぱい咲き、住民や観光客などの目を楽しませた。

## 環境

**問** ごみの排出量の削減に向けての成果は。また町の資源化率は。

**環境課長** 大量に事業系ごみを排出している10社のうち、4社の現場保管庫を確認し、□頭7回、文書の1回で指導した。その結果、事業者の排出量が月当たり20トンから15トン程度にまで減量された。資源化率は31・3%、多摩地域で27番目であるが、1人1日当たりの排出量は少なく、4番目である。

## 教育

**問** 毎年約1000万円支出しているフューチャースクールだが、30年度の調査では参加した生徒の方が学力の落ち込みがあったが。

**統括指導主事** 受講した生徒の方が、学力が低下していることは認識している。しかし、成績達成率では全体に比べて高い。より効果が高くなるように研究していきたい。

**問** 学力調査実施委託料約110万円の成果は。

**統括指導主事** 学習内容ごとに改善点を検証した。今行っている少人数習熟度別指導のクラス分けを、より児童・生徒の実態に合った教科指導になるよう学校ごとに分析している。

## まちづくり

**問** 狭山池上流部整備計画で調査設計委託したが成果は。当初予算では実現可能な事業に着手すると説明していたが進捗状況は。

**産業課長** 水はけに問題のある場所や費用対効果などの課題が見つかった。また、土地利用事業として、30年度は新規就農者、福祉作業所利用者の方々とひまわり畑づくり、春には菜の花畑づくりを行った。

**問** 町長公約の地域オーダーメイドで二本木公園の改修工事に約3000万円支出したが成果は。

**建設課長** 学童保育クラブでのアンケート結果では複合遊具の設置について「良かった。よく遊んでいる」また、町内会からは「良いものを作っていたいただいた」との声が届けられた。



二本木公園の特色である丘を活用した、幼児用、児童用の複合遊具が設置された。子供たちや公園利用者の遊びの場、憩いの場となっている。

## 子育て

**問** 出産・子育て応援事業（ゆりかごステーション）の成果は。

**健康課長** 母子保健コーディネーターによる妊婦面接185名、産前・産後サポート事業のプレママ・プチママ広場で86名、産後ケア事業で訪問・デイケア型（助産院）23名の利用があった。また、子育て経験のある8名の母子保健サポーターを養成した。



## 防災

**問** 30年度に購入した非常食の内容は。

**住民部参事** アルファ米2150食、ライスクッキー8496食、サバイバルフーズ5400食、合計約16000食を購入した。アレルギー対策として予定していたクラッカーをライスクッキーに変更した。また、液体ミルクについては備蓄が難しいため、都などに要請を考えている。



**問** 元自衛隊員を危機管理官として配置し町の防災事業はどのように充実できたのか。

**住民部参事** 災害対策本部で効率的な情報共有体制の構築、職員の意識向上、7つの災害協定の締結、自主防災組織・消防団幹部などへの講話、第三小学校での防災祭りへの協力など、専門的な知識と経験が生かされた。